

## 特性値証明書

### Reference Material

JEMCA 0004-3, JEMCA 0004-4

### 模擬排水標準物質 陰イオン成分分析用

### Simulated Effluent Reference Material for Anion Analysis

本標準物質は、水中に添加した陰イオン成分の値付けを行った標準物質である。値付けした陰イオン成分は、ふっ化物イオン (F<sup>-</sup>)、塩化物イオン (Cl<sup>-</sup>)、硝酸イオン (NO<sub>3</sub><sup>-</sup>) 及び硫酸イオン (SO<sub>4</sub><sup>2-</sup>) の4種類である。排水及び環境水などの水試料中の該当成分の定量分析にあたり、その精度管理に用いることができる。また、分析試料と本標準物質とを併行して分析することで、用いた分析方法や分析値の妥当性を確認する場合などに有用である。

#### <特性値>

本標準物質 (JEMCA 0004-3 及び JEMCA 0004-4) の特性値を表1に示す。

表1 特性値

成分	特性値 (mg/L)		データ数	分析方法 <特性値の決定方法> 2. を参照
	JEMCA 0004-3	JEMCA 0004-4		
ふっ化物イオン (F <sup>-</sup> )	0.59	0.79	339	①, ②, ③, ④
塩化物イオン (Cl <sup>-</sup> )	50.6	44.8	348	①, ④, ⑤
硝酸イオン (NO <sub>3</sub> <sup>-</sup> )	20.8	18.0	349	①, ②, ③
硫酸イオン (SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> )	7.4	8.9	340	①

#### <特性値の決定方法>

##### 1. 試験方法

JIS K 0102 : 2019 「工場排水試験方法」、JIS K 0170-2 : 2019 「流れ分析法による水質試験方法-第2部: 亜硝酸体窒素及び硝酸体窒素」、JIS K 0170-6 : 2019 「流れ分析法による水質試験方法-第6部: ふっ素化合物」、上水試験方法 (2011年版)

##### 2. 分析方法

分析方法は以下の通りである。なお、詳細は日環-106 技能試験報告書<sup>1)</sup>を参照のこと。

- ① イオンクロマトグラフ法

- ② 流れ分析法
- ③ 吸光光度法
- ④ イオン電極法
- ⑤ 滴定法

### 3. 特性値の決定

(一社)日本環境測定分析協会(以下、日環協)が実施した技能試験「水中の陰イオン分析(日環106-20WA)」<sup>1)</sup>において参加試験所が報告した分析値の中央値(median)を、ふっ化物イオンは小数点以下2桁、その他のイオンは小数点以下1桁に丸めてそれぞれ特性値とした。

#### <有効期限>

本標準物質の有効期限は、未開封で下記の保管条件のもとで、2025年6月30日である。

#### <保管条件>

本標準物質は清浄な冷暗所に保管する。汚染を防ぐために、容器を箱又はプラスチックバッグに入れることを推奨する。

#### <形状等>

本標準物質は無色透明の液体であり、500 mLポリエチレン瓶に500 mLが充填されており、各成分の特性値が異なるJEMCA 0004-3及びJEMCA 0004-4の2本の瓶を1組として紙箱に梱包されている。

#### <均質性>

均質性試験については、日環協と下請負契約を締結した一般財団法人化学物質評価研究機構が、日環協の「均質性・安定性試験実施要領」に従い実施した。作製したJEMCA 0004-3及びJEMCA 0004-4の各580本の充填試料からランダムに各10本を抜き取り、1試料につき2回の測定を実施した。

JEMCA 0004-3及びJEMCA 0004-4のいずれも、均質性試験の試料間標準偏差( $s_s$ )と、試料内標準偏差( $s_w$ )及び技能評価の標準偏差( $\sigma_R$ ) (正規四分位数範囲= $IQR \times 0.7413$ )との間に下記の式が成り立つことから、本標準物質の均質性に問題はないと判断した<sup>1)</sup>。

$$s_s \leq \sqrt{1.88 \times (0.3\sigma_R)^2 + 1.01 \times s_w^2}$$

#### <使用上の注意>

1. 本標準物質の汚染を避けるためにポリエチレン瓶の開栓は清浄な環境で行い、対象物質の汚染のない別容器に必要量を移し替えて使用する。
2. 開栓後は速やかに使用する。

#### <調製方法>

本標準物質は、技能試験「水中の陰イオン分析(日環106-20WA)」<sup>1)</sup>の試料と同一である。

本標準物質の調製は、日環協と下請負契約を締結した富士フイルム和光純薬株式会社が行った。

調製は、超純水(JIS K 0557 A3相当の水)にJCSS標準液及び試薬を添加して行った。なお、共存物質としてりん酸水素二ナトリウムを20 mg/Lとなるように添加した。

#### <参考情報>

上記技能試験(日環106-20WA)における報告値の標準偏差(正規四分位数範囲= $IQR \times 0.7413$ )<sup>1)</sup>は次の通りであった。

JEMCA 0004-3 : F<sup>-</sup> 0.027 mg/L、 Cl<sup>-</sup> 1.00 mg/L、 NO<sub>3</sub><sup>-</sup> 0.44 mg/L、 SO<sub>4</sub><sup>2-</sup> 0.19 mg/LJEMCA 0004-4 : F<sup>-</sup> 0.029 mg/L、 Cl<sup>-</sup> 0.92 mg/L、 NO<sub>3</sub><sup>-</sup> 0.37 mg/L、 SO<sub>4</sub><sup>2-</sup> 0.23 mg/L**<特性値承認日>**

2021年6月30日

**<生産及び頒布機関>**

一般社団法人 日本環境測定分析協会

**<調製機関>**

富士フイルム和光純薬株式会社（東京都中央区日本橋本町2丁目4番1号）

**<承認責任者>**

一般社団法人 日本環境測定分析協会

標準物質委員会 委員長 小野 昭紘

## 標準物質委員会

	氏 名	所 属
委員長	小 野 昭 紘	オノサイエンス
委員	上 野 博 子	一般財団法人化学物質評価研究機構
	大 竹 貴 光	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	加 藤 吉 紀	内藤環境管理株式会社
	松 村 徹	いであ株式会社
	若 林 雅 裕	株式会社片山化学工業研究所
オブザーバ	大 瀧 伸 之	関東化学株式会社
	望 月 稔 也	富士フイルム和光純薬株式会社
事務局	海 野 さと子	一般社団法人日本環境測定分析協会
	西 村 貴 洋	一般社団法人日本環境測定分析協会

**<参考資料>**

- 1) ISO/IEC 17043に基づく技能試験報告書 水中の陰イオン分析  
《報告書番号 日環 106-20WA (日環-106) 2021年5月》

一般社団法人 日本環境測定分析協会  
標準物質委員会

発行日：2021年7月20日

問合せ先 一般社団法人 日本環境測定分析協会 標準物質委員会 事務局  
〒134-0084 東京都江戸川区東葛西 2-3-4  
TEL : 03-3878-2811 FAX : 03-3878-2639 WEB : <https://www.jemca.or.jp/>